

株式会社ダイキアクシス

ダイキアクシス サステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)

サステナビリティファイナンス・フレームワーク適格性

アセスメント報告書

DNV GL セカンドパーティオピニオン



2020年8月

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

目次

報告書サマリー	3
I まえがき	4
II スコープと目的	7
DNV GL オピニオンの基礎	8
III 評価作業	9
IV 観察結果と DNV GL 意見	10
スケジュール-1 ダイキアクシス サステナビリティファイナンス	21
スケジュール 2 ダイキアクシスサステナビリティファイナンス適格性評価手順	22
SF-1 調達資金の使途	22
SF-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス	24
SF-3 調達資金の管理	25
SF-4 レポーティング	26

報告書サマリー

株式会社ダイキアクセス(以下、ダイキアクセス)は、2005年にダイキ株式会社の全額出資子会社として設立され、現在、「環境機器関連事業」、「住宅機器関連事業」、「再生可能エネルギー関連事業」を主要セグメントとし、中期経営計画(ESG 経営の推進)に基づき、社業を通じた環境改善の推進を重点施策として定めています。今回のサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)(以下、サステナビリティファイナンス)の資金使途は、「環境機器関連事業」のうち、水関連インフラ事業の海外(中国・東南アジア・インド・アフリカ)展開に焦点を当てたプロジェクトを対象としています。ダイキアクセスは、サステナビリティファイナンスに当たり、「株式会社ダイキアクセス サステナビリティファイナンス・フレームワーク」(以下、フレームワーク)を確立し、調達資金のうち 21.8 億円を下表のプロジェクトに充当することを計画しています。

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV GL)は外部レビュー機関として、当該プロジェクトのグリーン性及びソーシャル性^{*1}について、現在資本市場において幅広く認知されているグリーンボンド原則、グリーンローン原則やソーシャルボンド原則等で定められる4つの核となる要素を参照もしくは適用し^{*2}、フレームワークの適格性を評価しました。このサステナビリティファイナンスにより実行される適格プロジェクトは国連の定める持続可能な開発目標(SDGs)に関連してダイキアクセスが進める6つ目標のうち、特に「6.安全な水とトイレを世界中に(ターゲット 6.1: 2030年までに、すべての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ平等なアクセスを達成する)^{*3}に直接的、間接的に貢献する取組です。

サステナビリティプロジェクト ポートフォリオ	サステナビリティプロジェクトカテゴリー ^{*2} (適格クライテリア)	サステナビリティプロジェクト (充当予定額)	サステナビリティプロジェクト概要	SDGs への貢献
環境機器 関連事業 (水関連インフラ 事業)	環境貢献(グリーン) *プロジェクト-01、02、03 -持続可能な水資源および 廃水管理 -汚染防止と管理 社会貢献(ソーシャル) *プロジェクト-03 -手ごろな価格の基本的イン フラ設備(クリーンな飲料水) -必要不可欠なサービスへの アクセス(健康、健康管理)	プロジェクト-01: 浄化槽製造工場の建設・運 営等 (9.2 億円)	浄化槽増産及び新規生産にか かる、工場建屋・設備及び土地 取得資金(バングラデシュ、ケ ア、ミャンマー、スリランカ)	6.安全な水とトイレを 世界中に (ターゲット 6.1: 2030年までに、す べての人々の、安全 で安価な飲料水の 普遍的かつ平等な アクセスを達成する) 
		プロジェクト-02: 排水処理システムの設置・運 営等(BOO・BOT 事業) (10.5 億円)	BOO・BOT 事業による排水 処理システムの提供(インド、 バングラデシュ、ケニア、スリ ランカ、ミャンマー)	
		プロジェクト-03: Water Kioskによるクリーンな 飲料水の供給 (2.1億円)	RO 膜を利用したクリーンな 飲料水を提供するための販 売設備の建設・運営	

*1:グリーンボンド原則(ICMA、2018)、グリーンローン原則(LMA 2018)、ソーシャルボンド原則(ICMA、2020)、サステナビリティボンドガイドライン(ICMA、2018)、気候ボンド基準(CBI、v3.0)で示される代表的な適格プロジェクトカテゴリーより引用。 *2:新株予約権は債券(ボンド)やローンと異なるため、4つの要素を参照して適格性を評価。ローンはグリーンローン原則で定める4つの要素全てを適用し、また、その他原則・ガイドラインも参照し適格性を評価。 *3:インド中央政府(水環境省)が掲げる“Jal Jeevan Mission(JJM)”のうち飲料水問題解決に対する取組みに合致

DNV GL はサステナビリティファイナンス・フレームワークが、下記4つの要素に対する評価結果概要は以下の通りです。

要素 1.調達資金の使途 : サステナビリティファイナンスによる調達資金のうち 21.8 億円を、「環境機器関連事業」の水関連インフラ事業の海外(中国・東南アジア・インド・アフリカ)展開に焦点を当てた、上表のサステナビリティプロジェクトに充当します。

要素 2.プロジェクトの評価と選定のプロセス : プロジェクトは、ダイキアクセスのグループ経営理念、中期経営計画(ESG 経営の推進)に合致するものです。プロジェクトの評価及び選定は、グリーンボンド原則、グリーンローン原則、ソーシャルボンド原則をはじめとする関連する基準を参照及び適用し、ダイキアクセスが定める手順で行っています。また、評価及び選定の際、環境関連法令及び諸規則の遵守、地域コミュニティへの対応を行い、プロジェクト実行により確実に環境・社会貢献が得られることを確認しています。

要素 3.調達資金の管理 : 調達資金はダイキアクセス財務部で、ダイキアクセスの内部管理手順を用いて管理します。調達資金のうち 21.8 億円は、新たに行う適格プロジェクトへの新規もしくはリファイナンスとして充当される計画です。調達資金は、新株予約権行使後若しくはローン実行後(資金調達後)から充当までの間、現金または現金同等物で管理します。

要素 4.レポート : ダイキアクセスは資金充当状況、インパクトレーティング(環境・社会改善効果)を1年に1回、調達資金の大半が充当されるまでの間、ダイキアクセスウェブサイト上で報告する予定です。また、継続的にサステナビリティファイナンスへの適合に対する確実性(整合性)、客観性を高めるために、プロジェクト完工後1年後まで DNV GL によるレビューを取得予定です。

DNV GL は、フレームワークをはじめとするダイキアクセスより提供された関連文書・情報から、ダイキアクセスサステナビリティファイナンスが関連する基準を参照し、適切に計画され、実施される見込みであることを確認しました。

I まえがき

基本情報

株式会社ダイキアクセス(以下、ダイキアクセス)は、2005年にダイキ株式会社の全額出資子会社として設立され、現在、「環境機器関連事業」、「住宅機器関連事業」、「再生可能エネルギー関連事業」を主要セグメントとし、社業を通じた環境改善の推進を重点施策として定めています。今回のサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)(以下、サステナビリティファイナンス)の資金使途は、「環境機器関連事業」のうち、水関連インフラ事業の海外(中国・東南アジア・インド・アフリカ)展開に焦点を当てたプロジェクトを対象としています。ダイキアクセスは、サステナビリティファイナンスの発行に当たり、「株式会社ダイキアクセス サステナビリティファイナンス・フレームワーク」(以下、フレームワーク)を確立し、調達資金のうち21.8億円を充当することを計画しています。

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV GL)は外部レビュー機関として、当該プロジェクトのグリーン性及びソーシャル性^{*1}について、現在資本市場において幅広く認知されているグリーンボンド原則、グリーンローン原則やソーシャルボンド原則等で定められる4つの核となる要素を参照若しくは適用し^{*2}、サステナビリティファイナンス・フレームワークの適格性を評価しました。

DNV GL は、フレームワークをはじめとするダイキアクセスより提供された関連文書・情報から、ダイキアクセスサステナビリティファイナンスが関連する基準を参照し、適切に計画され、実施される見込みであることを確認しました。

*1:グリーンボンド原則(ICMA、2018)、グリーンローン原則(LMA 2018)、ソーシャルボンド原則(ICMA、2020)、気候ボンド基準(CBI、v3.0)で示される代表的な適格プロジェクトカテゴリより引用。

*2: 新株予約権は債券(ボンド)やローンと異なるため、4つの要素を参照して適格性を評価。ローンはグリーンローン原則で定める4つの要素全てを適用して適格性を評価。

発行体名称：株式会社 ダイキアクセス

フレームワーク名：ダイキアクセス サステナビリティファイナンス・フレームワーク

外部レビュー機関名：DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

報告書作成日：2020年8月21日

報告書公開日：2020年9月30日(予定)

発行体について

ダイキアクシスは、1958年にタイルと衛生陶器の専門店である大亀商事の創業に始まり、その後ダイキ商事株式会社への商業変更を経て、全額出資子会社として設立、その後マネジメント・バイアウトにて独立しています。現在、ダイキアクシスグループは、ダイキアクシス及び連結子会社13社(国内7社、国外6社)及び関連会社2社(国外2社)で構成されています。

ダイキアクシスの主要セグメントは浄化槽・排水処理システムを主力とした「環境機器関連事業」、システムキッチンに代表される「住宅機器関連事業」、太陽光発電事業及び小形風力発電機事業及びバイオディーゼル燃料関連事業等の「再生可能エネルギー関連事業」を主な事業として取り組んでいます。

ダイキアクシスはグループ経営理念として「ダイキアクシスグループは、PROTECT×CHANGE『環境を守る。未来を変える。』を使命とし、環境創造開発型企業として発展を続けることで、社員の生活向上及び社会の発展に貢献する。』^{*1}を掲げると共に、具体的な中期経営計画(ESG経営の推進)^{*2}として、上記の主な事業を通じ、環境分野においては特に、①水関連インフラ事業の海外(中国・東南アジア・インド・アフリカ)展開、②太陽光発電事業や小形風力発電機事業を核とする再生可能エネルギー関連事業に注力しています。

また、ダイキアクシスは国連のSDGsを踏まえ、優先的に6つの重要課題(マテリアリティ)に取り組んでいます^{*3}。

今回のサステナビリティファイナンスを通じた水関連事業を通じた活動の推進は、直接的、間接的に環境及び社会課題に貢献する取組です。この事業活動はダイキアクシスの定めるグループ経営理念、中期経営計画(ESG経営の推進)、またSDGs目標の6「安全な水とトイレを世界中に(ターゲット6.1：2030年までに、すべての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ平等なアクセスを達成する)」への貢献と密接に関連しています。

SDGs 目標	活動	ダイキアキスグループの取組
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	水関連事業を通じた活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口の多い中国、インド、インドネシアに浄化槽の製造拠点の建設 ・ ベトナム、ミャンマー、スリランカのアジア諸国、アフリカのケニアでは現地企業との販売代理店契約締結
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	再生可能エネルギー関連事業を通じた活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電事業や小形風力発電事業を主とした再生可能エネルギー関連事業による CO₂ 削減に向けた取り組みを実施
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	各事業を通じた活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業での省エネ商材の採用に注力 ・ 自社活動に伴い発生する電力を 100%再生可能エネルギーでまかなうことに向けた取組を推進
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>  <p>8 働きがいも経済成長も</p>		<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革とダイバーシティの推進 ・ 女性のボードメンバー登用 ・ 女性活躍推進で「くるみん認定（厚労省の認定制度）」を取得

* 1 : コーポレートスローガン : <http://www.daiki-axis.com/company/index03.html>

* 2 : ESG への取組 <http://www.daiki-axis.com/ir/001/index002.html>

* 3 : ESG 経営の推進、SDGs への取組、 2019 年 12 月期第 2 四半期決算説明会(2019 年 8 月 29 日)

II スコープと目的

ダイキアックスは DNV GL に「ダイキアックスサステナビリティファイナンス」の発行前評価及び定期レビューを委託しています。DNV GL における発行前評価および定期レビューの目的は、ダイキアックスが発行するサステナビリティファイナンス・フレームワークが、後述する GBP、GLP、SBP をはじめとする各種基準を参照若しくは適用し、環境課題及び社会課題の解決に資することの確認、評価により、適格性についてセカンドパーティ・オピニオンを提供することです。

この報告書では、サステナビリティファイナンス^{*1}の財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境及び社会便益に関する保証も提供されません。

*1: サステナビリティファイナンス特有の資金調達に関する取扱いは、後述 IV.(3) 項を参照ください。

(1) レビューのスコープ

レビューは以下の項目を評価し、GBP の主要な 4 要素との整合性について確認されました

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

(2) レビュー提供者の役割

- | | |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルタント・レビュー(セカンド・オピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

(3) 適用される基準もしくはガイドライン

	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル
1.	グリーンボンド原則 2018、GBP	国際資本市場	参照
2.	グリーンボンドガイドライン、GBGLs	環境省、2017	参照
3.	ソーシャルボンド原則 2020、SBP	国際資本市場	参照
4.	サステナビリティボンドガイドライン 2018、SBG	国際資本市場	参照
5.	グリーンローン原則 2018、GLP	ローン・マーケット・アソシエーション (LMA)他	適用
6.	気候ボンド基準 3.0 版 (対象セクター技術基準: 気候ボンド基準水インフラ基準)、CBS(CBS-WI)	気候ボンドイニシアチブ	参照 (適用可能な技術基準)
7.	グリーンボンド及びソーシャルボンド: 持続可能な開発目標(SDGs)に照らしたハイレベルマッピング	国際資本市場	参照
8.	インパクトレポーティング調和化に関する冊子	国際資本市場	参照

DNV GL オピニオンの基礎

DNV GL は、発行体にとってより柔軟なサステナビリティファイナンス適格性評価手順（以下、手順）を作成するために、GBP、GLP、GBGLs、SBP、SBG をはじめとする各種基準の要求事項を参照したダイキアクシスサステナビリティファイナンス評価手順を適用しました。この手順は GBP、GLP、SBP 等の 4 つの核となる要素を参照若しくは適用しています。

DNV GL のサステナビリティファイナンス評価手順は、DNV GL の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、サステナビリティファイナンスは「環境及び社会便益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」べきである、というものです。

DNV GL の手順に従って、レビュー対象であるこのサステナビリティファイナンスに対する基準は、以下の 4 つの原則にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の用途**：調達資金の用途の基準は、サステナビリティファイナンスの発行体が適格性を有するサステナビリティファイナンスにより調達した資金を使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境もしくは社会改善効果を提供するものです
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、サステナビリティファイナンスの発行体が、サステナビリティファイナンス調達資金を用途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、サステナビリティファイナンス調達資金が発行体組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金(新株予約権行使後若しくはローン調達～プロジェクト充当までの期間)がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポート**：レポートの基準は、サステナビリティファイナンスへの投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

III 評価作業

DNV GL の評価作業は、発行体によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV GL は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV GL の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

初回アセスメント[サステナビリティファイナンス初回アセスメント]

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、ファイナンスへの適用を目的とした発行体特有の評価手順の作成。
- このサステナビリティファイナンスに関して発行体より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照します。
- 発行体との協議及び、関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

定期(年次)アセスメント *この報告書には含まれません

- サステナビリティファイナンス実行に関連した発行体により提供された根拠書類、上位レベルのデスクトップ調査、文書レビュー、及び発行体の主要担当者へのインタビューで補足された根拠書類、の評価。これらのチェックは、現在の評価ベストプラクティスと標準方法論を参照します。
- 発行体の管理者との協議、および関連文書管理のレビュー。
- 現地調査および検査（必要な場合）。
- 定期評価時点での、スケジュール-2 に記載された対象プロジェクト及び資産のレビュー。
- 本書で詳述されている、定期評価の観察結果の文書作成。

DNV GL の意見表明（詳細は後述）はこれらを要約したものです。

IV 観察結果と DNV GL 意見

DNV GL の観察結果と意見は以下の通りです。

(1) 調達資金の使途

DNV GL はダイキアックスがサステナビリティファイナンスにより調達した資金のうち、21.8 億円を以下の適格クライテリアに合致するプロジェクト (表-1 参照) の関連する支出^{*1} に新規ファイナンス若しくはリファイナンスとして充当する計画であることを確認しました。

各プロジェクト(01~03)は各関連基準・ガイドラインで示されるグリーン性(環境貢献)を有する代表的なプロジェクトであり、プロジェクトが実行される地域の環境改善効果が期待されると共に、プロジェクト-03 はインド政府の掲げる水関連の社会課題解決に直接的・間接的に貢献するものであり、プロジェクト対象地域住民またはプロジェクトを利用する人々への清浄な飲料水の供給という観点で、社会的便益があることが発行体より示されています^{*4} 参照。

適格クライテリア-1 : 持続可能な水資源、

廃水管理及び汚染の防止と管理

プロジェクト01 : 浄化槽製造工場の建設・運営等

プロジェクト02 : 排水処理事業(BOO事業・BOT事業)^{*2*3}

適格クライテリア-2 : 手ごろな価格の基本的インフラ設備(クリーンな飲料水)、

必要不可欠なサービスへのアクセス(健康、健康管理)

プロジェクト03 : Water Kioskによる清浄な飲料水の供給^{*4}

- * 1 関連する支出 : 浄化槽増産及び新規生産にかかる工場建屋・土地・設備等の取得資金、浄化槽の BOT 事業^{*2}・BOO 事業^{*3}にかかる設置資金・ランニングコスト。
- * 2 BOO 事業 : (Build Own Operate) 建設・資金調達・維持管理・運営をダイキアックスグループで行い、契約終了後は当社グループが施設の所有権を所有し続ける、または、施設を解体・撤去して事業を終了させる方式。
- * 3 BOT 事業 : (Build Operate Transfer) 建設・資金調達・維持管理・運営を当社グループで行い、契約終了後に顧客に施設の所有権を移転する方式。
- * 4 プロジェクト-03 : インドでは政府方針として国家地方飲料水プログラム(National Rural Drinking Water Programme)に基づき、水関連の社会課題解決(全ての家庭に安全で適切な飲料水の提供をさらに可能にする)に対し、複数の水関連プロジェクトを支援している。ダイキアックスのサステナビリティプロジェクト-03 は、上記プログラムに含まれる以下の水関連の社会課題解決(出典 JJM: Jal Jeevan Mission、水生活活動)に貢献すると考えられる。インドで行政委員会(NITI Aayang)は、約 6 億人が深刻な水ストレスに直面しているとレポートしている。
 - ・飲料水の信頼性向上
 - ・ポータブル水処理技術(水質向上)
 - ・雑排水管理

表-1 ダイキアクシスサステナビリティファイナンス プロジェクト
(詳細はスケジュール-1 を参照ください)

サステナビリティ プロジェクト ポートフォリオ	サステナビリティ プロジェクトカテゴリー*2 (適格クライテリア)	サステナビリティ プロジェクト(充当予定額)	サステナビリティ プロジェクト概要	SDGs への貢献
環境機器関連事業 (水関連インフラ事業)	環境貢献(グリーン) *プロジェクト-01、02、03 -持続可能な水資源および 廃水管理 -汚染防止と管理 社会貢献(ソーシャル) *プロジェクト-03 -手ごろな価格の基本的イン フラ設備(クリーンな飲料水) -必要不可欠なサービスへの アクセス(健康、健康管理)	プロジェクト-01 : 浄化槽製造工場の建設・運 営等 (9.2 億円)	浄化槽増産及び新規生産にか かる、工場建屋・設備及び土地 取得資金(バングラデシュ、ケニ ア、ミャンマー、スリランカ)	6.安全な水とトイレを 世界中に (ターゲット 6.1 : 2030 年までに、す べての人々の、安全 で安価な飲料水の 普遍的かつ平等な アクセスを達成する) 
		プロジェクト-02 : 排水処理事業(BOO 事業・ BOT 事業) (10.5 億円)	BOO事業・BOT事業による 排水処理システムの提供(イ ンド、バングラデシュ、ケニア、スリ ランカ、ミャンマー)	
		プロジェクト-03 : Water Kioskによるクリーンな 飲料水の供給 (2.1億円)	RO 膜を利用したクリーンな 飲料水を提供するための販 売設備の建設・運営	



Daiki Axis BA-5



Daiki Axis BA-25

写真-1 プロジェクト 01 及び プロジェクト 02 製品例(生活排水対応用浄化槽)



写真-2 プロジェクト 03 Water Kiosk 飲料水製造装置/販売サービス例

グリーンボンド原則(GBP)、グリーンローン原則(GLP)で分類される調達資金の用途

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 汚染防止及び抑制 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 持続可能な水資源及び廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input type="checkbox"/> 地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) | |
| <input type="checkbox"/> サステナビリティファイナンス発行時には未定であるが、現時点で GBP 分類または、GBP には記載されていない他の適格分野に適合することが予想される | |

ソーシャルボンド原則(SBP)で分類される調達資金の用途

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 手ごろな価格の基本的インフラ設備 | <input checked="" type="checkbox"/> 必要不可欠なサービスへのアクセス |
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の住宅 | <input type="checkbox"/> 雇用創出 (中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンス) |
| <input type="checkbox"/> 食糧の安全保障 | <input type="checkbox"/> 社会経済的向上とエンパワーメント |
| <input type="checkbox"/> SBP 分類に適合すると考えられる、もしくは SBP には記載されていないが適格性のある領域である | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): |

(2) プロジェクトの評価と選定プロセス

DNV GL はレビューを通じて、スケジュール 1 に記載される環境機器関連事業(水関連インフラ事業)サステナビリティプロジェクトポートフォリオに含まれる 3 つのサステナビリティプロジェクトが、発行体の経営理念(コーポレートスローガン)及び中期経営計画(ESG 経営の推進)に合致し、「II 項 スコープと目的 (3) 適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアを満たすことを発行体の関連部署で適切な所定のプロセスを経て評価及び選定されることを確認しました。プロジェクトの実行に当たっては適格クライテリアに合致すると共に、「サステナビリティプロジェクト選出における前提条件」として下記を実施若しくは実施予定であり、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響について対処していることを確認しました。

<サステナビリティプロジェクト選出における前提条件>

- 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施等)
- 地域コミュニティへの対応

評価及び選定

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境貢献・社会目標の達成に合致していること | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| <input checked="" type="checkbox"/> 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること | <input type="checkbox"/> (具体的に記載): |

責任に関する情報及び説明責任

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準 | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内部での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): | |

Evaluation and selection

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> Credentials on the issuer's green and social objectives | <input checked="" type="checkbox"/> Documented process to determine that projects fit within defined categories |
| <input checked="" type="checkbox"/> Defined and transparent criteria for projects eligible for Social Bond proceeds | <input checked="" type="checkbox"/> Documented process to identify and manage potential ESG risks associated with the project |
| <input checked="" type="checkbox"/> Summary criteria for project evaluation and selection publicly available | <input type="checkbox"/> Other (<i>please specify</i>): |

Information on Responsibilities and Accountability:

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> Evaluation / Selection criteria subject to external advice or verification | <input checked="" type="checkbox"/> In-house assessment |
| <input type="checkbox"/> Other (<i>please specify</i>): | |
-

(3) 調達資金の管理

DNV GL は、ダイキアックスが新株予約権行使若しくはローンにより資金を調達してから充当までの期間、どのように調達資金を追跡管理するかについて確認しました。DNV GL は発行体が調達資金を資金充当期が到来した適格プロジェクトへ順次充当する計画であることを確認しました。資金充当状況については、発行体の内部経理管理手順に基づき支出し、財務部(経理財務課)が管理することを確認しました。発行体は各会計年度毎に定期的にの残高(新株予約権行使後若しくはローンによる調達～充当までの期間にある調達資金の残高(現金または現金同等物))をレビューする計画です。

なお、先述の通り、DNV GL はサステナビリティファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、もしくは長期的な環境改善効果に関する保証も提供しません。

サステナビリティファイナンスのうち、新株予約権特有の資金調達に関する取扱いは、下記を参照ください。

<重要事項> 新株予約権特有の資金調達に関する取扱い

新株予約権の行使による払込みの有無と権利行使の時期は本新株予約権者の判断に依存し、また本新株予約権の行使価額は修正又は調整される可能性があるため、現時点において調達できる資金の額及び時期は確定したのではなく、現時点において想定している調達資金の額及び支出予定時期に差異が発生する可能性があります。

現時点において想定している金額の資金を調達できなかった場合や支出予定時期との関係で不足が生じた場合には、当該時点の状況に鑑み別途必要な資金をこのサステナビリティファイナンスに含まれるローン又は手元資金から充当し、又は金融機関からの借入等で調達する予定です。本新株予約権の行使により調達した資金は、各資金使途のうち、支出時期が到来したのから、順次充当いたします。

調達資金の追跡管理:

- サステナビリティファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、発行体により体系的に区別若しくは追跡管理される
- 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- その他 (具体的に記載):

追加的な開示情報:

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 新規投資のみに充当 | <input checked="" type="checkbox"/> 既存及び新規投資の両方に充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別(プロジェクト)の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): |

(4) レポーティング

DNV GL は、GBP、GLP、SBP をはじめとする基準やガイドラインで要求される特定の情報に関し、発行体のウェブサイトで年次報告する予定であることを確認しました。これら情報公開には、各プロジェクト毎(プロジェクト 01~03 毎)に、調達資金の充当と管理状況、対象プロジェクトと進捗、及び関連する定性的・定量的な環境及び社会課題改善効果についての記載が含まれます。環境改善効果についてはレポーティング方法に関連するハンドブック「インパクトレポーティング調和化に関する冊子」を参照し、機密性を考慮して開示する予定であることを確認しました。具体的には以下を予定しています。

-1- 調達資金の充当と管理

調達資金の充当と管理については大半の充当が完了するまでの間、開示する予定です。開示の際は新株予約権及びローンによる調達資金を区別して開示する予定です。

- (1) 調達資金を充当したサステナビリティプロジェクト毎の設備投資額
- (2) 調達資金のうち、未充当資金の額

-2- 対象プロジェクトと進捗状況

- (1) 調達資金を充当した適格プロジェクトの所在、名称、生産品目、生産能力等の情報(機密性を考慮)
- (2) 調達資金を充当した適格プロジェクトの進捗状況(例：建設中の場合はその状況 完成予定時期等)

-3- 環境・社会課題改善効果

- (1) プロジェクト-01：浄化槽製造工場の建設・運営等

調達資金を充当した工場から製造・出荷された浄化槽数およびその浄化槽によって処理出来る排水処理量見込(km³/年) ※ただし、プロジェクト-02 に係る浄化槽の製造は含まない

- (2) プロジェクト-02：排水処理事業(BOO 事業・BOT 事業)

調達資金を充当した施設の状況(設置場所、設計処理能力、稼働したプロジェクトの状況、排水処理量(km³/年))

- (3) プロジェクト--03：Water Kiosk による清浄な飲料水の供給

調達資金を充当した施設の状況(設置場所・設置基数、稼働したプロジェクトの状況、飲料水の供給量(km³/年))

ダイキアクシスは、ダイキアクシスサステナビリティファイナンスが関連する基準に継続的に適合していることの確実性(整合性)、客観性を高めるために、プロジェクト完工後 1 年後まで DNV GL によるレビューを取得予定です。

資金充当状況に関する報告事項:

- プロジェクト単位 プロジェクトポートフォリオ単位
 関連する個々のサステナビリティファイナンス単位 その他(具体的に記載):

報告される情報:

- 資金充当額 投資総額のうちサステナビリティファイナンスにより充当された額割合
 その他(具体的に記載):新株予約権実行による調達額とローン調達額

頻度:

- 毎年 半年ごと
 その他(具体的に記載):

インパクトレポート:

- プロジェクト単位 プロジェクトポートフォリオ単位
 関連する個々のサステナビリティファイナンス単位 その他(具体的に記載)

頻度:

- 毎年 半年ごと
 その他(具体的に記載):

報告される情報 (予測される効果、若しくは発行後) 環境貢献:

- GHG 排出量/削減量 エネルギー削減量
 その他の ESG 評価項目(具体的に記載):
 施設情報、浄化槽数、排水処理量(km³/年)

報告される情報 (予測される効果、若しくは発行後) 社会貢献:

- 受益者の数 受益者
 その他の ESG 評価項目(具体的に記載):
 飲料水の供給量(km³/年)

開示方法

- 財務報告書に記載 サステナビリティレポートに記載
 臨時報告書に記載 その他(具体的に記載):ダイキアックスウェブサイト
 レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載)

評価結果

DNV GL は、ダイキアクシスから提供された情報と実施された業務に基づき、ダイキアクシスがサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)の適格性評価手順の要求事項を満たしており、サステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)の定義・目的の「環境及び社会への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」と一致していることを意見表明します。

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社.

2020年8月21日



マーク ロビンソン

サステナビリティサービス マネージャー

DNV GL ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



前田 直樹

代表取締役社長

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV GL

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV GL enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion Providers, DNV GL: The management of Issuer has provided the information and data used by DNV GL during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV GL is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV GL shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete

スケジュール-1 ダイキアクシス サステナビリティファイナンス

表-1 ダイキアクシス サステナビリティファイナンス 候補プロジェクト及び資産

No.	プロジェクト ポートフォリオ		プロジェクト分類 [環境・社会面]	プロジェクト サブ分類	充当予定額	特記事項 (概要、製品仕様、設置場所、等)
01	浄化槽製造工場の建設・運営等	01-1 スリランカ	環境 -持続可能な水資源および廃水管理 -汚染防止と管理	環境・社会 -生活・事業場排水による周辺地域の環境汚染を防止するための廃水処理システム -公共水域浄化システム	9.2 億円	-概要: 浄化槽増産及び新規生産にかかる、工場建屋・設備及び土地取得資金 -製品仕様(例): 生活排水対応浄化槽 -設置場所: バングラデシュ、ケニア、ミャンマー、スリランカ
01-2 バングラデシュ						
01-3 ケニア						
01-4 ミャンマー						
02	環境機器関連事業 (水関連インフラ事業)	排水処理事業 (BOO 事業・BOT 事業)	インド、バングラデシュ、ケニア、スリランカ、ミャンマー		10.5 億円	概要: BOO・BOT事業による排水処理システムの提供 -製品仕様(例): 生活排水対応浄化槽 -設置場所: インド、バングラデシュ、ケニア、スリランカ、ミャンマー
03		Water Kiosk によるクリーンな飲料水の供給	社会 -手ごろな価格の基本的インフラ設備(飲料水) -必要不可欠なサービスへのアクセス(健康)	環境・社会 クリーンな飲料水の供給	2.1 億円	-概要: RO膜を利用したクリーンな飲料水を提供するための販売設備の建設・運営 -設置場所: インド

スケジュール 2 ダイキアクシスサステナビリティファイナンス適格性評価手順

下記のチェックリスト SF-1 ~ SF-4 は、グリーンボンド原則 2018、グリーンローン原則 2018 をはじめとする関連基準で定められる 4 つの核となる要素にもとづき、サステナビリティファイナンス適格性評価用に作成された DNV GL 手順です。*SF; Sustainability Finance, サステナビリティファイナンス

SF-1 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL 観察結果
1a	資金の種類	サステナビリティファイナンスの種類は GBP 等で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 <ul style="list-style-type: none"> ・(標準的)サステナビリティファイナンス ・レバニューファイナンス ・プロジェクトファイナンス ・その他 	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアクシスサステナビリティファイナンスフレームワーク(以下、ダイキアクシスフレームワーク) ダイキアクシス関係者との協議	評価作業を通じダイキアクシスサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)(以下、サステナビリティファイナンス)は以下のカテゴリに分類されることを確認した。 <ul style="list-style-type: none"> ・その他 - * 新株予約権行使及びローンにより調達した資金をダイキアクシスサステナビリティファイナンス・フレームワーク(以下、ダイキアクシスフレームワーク)に基づき、環境及び社会貢献が明確にされた適格プロジェクトへの資金充当、プロジェクトの評価及び選定、調達資金の管理及びレポーティングを実施するものである
1b	サステナビリティ(グリーン及びソーシャル)プロジェクト分類	サステナビリティファイナンスにおいて肝要なのは、その調達資金がサステナビリティプロジェクトのために使われることであり、そのことは、サステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)発行に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアクシスフレームワーク - ダイキアクシス開示資料(サステナビリティファイナンス に関するお知らせ (予定)) - ダイキアクシスウェブサイト ダイキアクシス関係者との協議	ダイキアクシスフレームワークの中で特定されたプロジェクトが GBP、GLP 及び SBP をはじめとする基準で分類される代表的な以下の適格カテゴリに該当する。また 環境貢献(グリーン) -持続可能な水資源および廃水管理 -汚染防止と管理 社会貢献(ソーシャル) -手ごろな価格の基本的インフラ設備(クリーンな飲料水) -必要不可欠なサービスへのアクセス(健康、健康管理) 調達した資金は新規ファイナンス若しくはリファイナンスとして新たなプロジェクトもしくは充当済みのプロジェクトにリファイナンス(ローン返済)に資産充当される計画である。

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
1c	環境面及び社会面での便益	調達資金使途先となる全てのサステナビリティプロジェクトは明確な環境面及び社会面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	確認した文書類： - ダイキアクシスフレームワーク ダイキアクシス関係者との協議	DNV GL は、適格プロジェクトの実行では、生活排水処理、事業場排水処理、公共水域浄化及び正常な飲料水の提供により、1b で示す環境貢献及び社会貢献に資するを確認した。これらは、排水処理量(km ³ /年)や飲料水の供給量(km ³ /年)として定量的に評価され、また、機器の製造・出荷数や設置した施設数が定期レポートで開示される予定である。 DNVGL はアセスメントを通じ、プロジェクト実行に関連する環境・社会影響リスクは以下の観点で考慮されており、相対的に少ないと判断した。 - 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施等) - 地域コミュニティへの対応 また、プロジェクト-03 についてはインド中央政府(水環境省)が掲げる”Jal Jeevan Mission(JJM)” のうち飲料水問題解決に対する取組みであることを確認している。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	- ダイキアクシスフレームワーク ダイキアクシス関係者との協議	新株予約権実行とローン調達のうち、ローンによる資金充当が先行した場合、新株予約権で調達した資金はローン返済金の一部として使われる。リファイナンスの対象となったプロジェクト及びリファイナンスとしての充当額は年次レポートでの開示に含める。

SF-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>サステナビリティファイナンスの発行体は調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行体が、対象となるプロジェクトが適格なサステナビリティ(グリーン、ソーシャル)プロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス 調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての基準作成 環境面、社会面での持続可能性に係る目標 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアクシスフレームワーク - ダイキアクシス内部文書(充当地域の選出について) <p>ダイキアクシス関係者との協議</p>	<p>ダイキアクシスフレームワークに基づき、ダイキアクシスは以下の基準に従いプロジェクトの選定を行った。</p> <p>適格プロジェクト：</p> <ul style="list-style-type: none"> - スケジュール 1 に記載されるサステナビリティプロジェクトが、発行体の経営理念(コーポレートスローガン)及び中期経営計画(ESG 経営の推進)に合致し、またダイキアクシスフレームワークに記載する適格クライテリア[グリーン性(環境貢献)及びソーシャル性(社会貢献)]を満たすことを発行体の関連部署で適切な所定のプロセスを経て評価及び選定されたこと。 - プロジェクトの実行に当たっては「Ⅱ 項 スコープと目的 (3) 適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアに合致すると共に、プロジェクト選定の際に、「選出における前提条件」として下記を実施若しくは実施し、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響について対処していること。 <p><サステナビリティプロジェクト選出における前提条件></p> <ul style="list-style-type: none"> - 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施 等) - 地域コミュニティへの対応
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>サステナビリティファイナンスプロセスに関して発行体により公表される情報には、規準、認証に加え、投資家は発行体のフレームワークや環境性及び社会性に関する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアクシスフレームワーク - ダイキアクシス経営理念、中期経営計画他 <p>ダイキアクシス関係者との協議</p>	<p>DNV GL は文書及びインタビューを通じたアセスメントにより、ダイキアクシスが経営理念(コーポレートスローガン) 及び中期経営計画(ESG 経営の推進)を通じ、環境機器関連事業のうち水関連インフラ事業が持続可能な社会に貢献する方針であることを確認した。また、ダイキアクシスが開示している決算説明会資料等でサステナビリティプロジェクトを含む成長戦略を示しており、持続性のある活動であることを確認した。</p> <p>ダイキアクシスはサステナビリティプロジェクトによる環境及び社会課題の改善効果について、フレームワークに基づいて年次レポートする計画である。</p> <p>また、ダイキアクシスとの協議及び文書レビューにおいて、DNV GLはダイキアクシスの実施するサステナビリティプロジェクトが持続可能な社会の実現に有効な事業であるということを確認した。</p>

SF-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	サステナビリティファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、サステナビリティプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	確認した文書類： - ダイキアクシスフレームワーク - ダイキアクシス内部管理規程文書類 ダイキアクシス関係者との協議	DNV GLは文書レビューとインタビューにより、調達した資金の全てはサステナビリティファイナンス発行後(新株予約権の権利行使後若しくはローン調達後)からプロジェクト充当までの間、ダイキアクシスの一般的な会計口座に入金され、その後、経理管理規定や文書管理規定に基づく内部プロセスを用いて適格プロジェクトに充当される。
3b	調達資金の追跡管理-2	サステナビリティファイナンスを管理すべき期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： - ダイキアクシスフレームワーク - ダイキアクシス内部管理規程文書類 ダイキアクシス関係者との協議	DNV GLは文書レビューとインタビューによりダイキアクシスがサステナビリティファイナンス発行後(新株予約権の権利行使後若しくはローン調達後)からプロジェクト充当までの期間、どのように資金を追跡管理するかについて確認した。DNV GLは発行体が調達資金(新株予約権の権利行使で得た資金)は適時、サステナビリティプロジェクトへ新規充当する計画であることを確認した。発行体は少なくとも各会計年度毎に定期的にサステナビリティファイナンスの残高(新株予約権の権利行使した後に未充当となっている資金若しくは未充当のローン)をレビューする計画である。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるサステナビリティプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： - ダイキアクシスフレームワーク - ダイキアクシス内部管理規程文書類 ダイキアクシス関係者との協議	ダイキアクシスは調達資金について、プロジェクトの進捗状況に応じ、適時ファイナンス(新規投資)若しくはリファイナンスとして支出する予定であり、新株予約権の権利行使後の未充当資金若しくは未充当のローンについて、現金または現金同等物で管理(運用)する計画であることを確認した。

SF-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の使途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はサステナビリティファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 守秘義務や競争上の配慮 - 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス関係者との協議 	<p>ダイキアキスはサステナビリティファイナンスで要求される特定の項目についてダイキアキスウェブサイトにて年次で情報開示を行う予定である。</p> <p>情報開示には資金充当状況、プロジェクト進捗状況、環境及び社会貢献に関連する定性的及び定量的な報告が含まれる。</p> <p>具体的には、排水処理量(km³/年)、飲料水の供給量(km³/年)及び関連する機器の製造・出荷数、設置した施設数が定期レポートで開示される予定である。</p>